

館報



7 月号

No. 783

令和3年
(2021年)

やまがた



※表紙の写真は撮影のためマスクを外してもらっています。

山林での安全を守る

おぎうえ けい
荻上 慶さん (中大池)

学生の頃から森林資源の活用に興味を持っており、林業に憧れ松本広域森林組合に就いて12年目になる荻上さん。林業は他の業種と比べて労働災害が10倍ほど多く、毎日の安全に十分心掛けて作業しています。

今は新規職員に仕事を教える育成班でチェーンソーの取り扱いはもちろん、作業現場のリスク管理を重点に教育しています。

「目標は職員が怪我をせず安全に作業してもらえるように指導していきたい」と話してくれました。

(6月22日 山形村〔林道横吹1号線〕の山林にて)

働姿

防災・減災を考える②

～村民の皆さんに防災への思いを聞いてみました～

7月3日(土)に静岡県熱海市を襲った土砂災害。その被害の大きさに日本中が自然災害の怖さと無力感に心を痛めたのではないのでしょうか。被害に遭われた皆さまへ心よりお見舞いを申し上げます。「もし山形村でも起こったら…」「今からできることはないのか」と防災について考える貴重な機会として、村内2家庭にご協力を得て、家庭で行っている災害への備えや心配なことをうかがいました。そこで出た疑問・心配なことについて館報編集部が役場総務課担当者へ取材を行いました。

【質問】1 家庭での備え 2 災害時に心配なこと



30代夫婦(上大池)

1水を1箱常備しています。継続的に見直していきたいです。キャンプ用品も一式あるので数日は自宅まで過ごせるかなと思います。
2熱海市の土砂災害を受けて、家の近くにも山があり、同じように土砂が崩れてきたら怖いと思いました。対策があれば教えてほしいです。

1枕元に電灯やラジオ、リュックに着替えや保温シート、水、缶詰パン(長期保存できる災害備蓄用パン)。
2歩行に障がいがあるため、公民館まで行けない。水害時は自宅の2階へ避難するしかありません。隣近所の方たちと挨拶はするが、お互いの事情まで知らないの、災害時に「公民館まで連れて行ってほしい」と言いにくいのが本音です。防災訓練などに参加して地域の役に立ちたいと思うが、身体に障がいがあってもできる仕事があるのかわからない。自分から何かしてほしいと頼むことも心苦しいです。公民館もバリアが多く、高齢者や心身に障がいがある人の視点で地域とつながれるよう、環境を整えてほしいと願います。



70代夫婦(小坂)

土砂災害への備え 各家庭に配布している防災ハザードマップ(紫色の冊子)をご覧ください。家の位置と土砂災害警戒区域(黄色の線)、土砂災害警戒特別警戒区域(赤色の線)をご確認ください。土砂災害から逃れるためには、土砂災害警戒区域外へ逃げるしか方法はありません。全国各地で土砂災害が毎年のように発生していますので、ご家庭内でどこに避難するのか、どの道を通るのか、ぜひ話し合ってみてください。



役場総務課 担当者

避難所での住民の皆さんの役割 避難所での生活が長くなるにつれ、避難所の運営は村の職員の手を離れ、避難者の皆さんの手に移ります。避難者の皆さんで、自分たちに必要なことなどを考え、村の職員、ボランティアの人たちと一緒に避難所生活を乗り切っていけるよう、運営していかなければなりません。そのためには、子どもから高齢者まで、様々な人たちに様々な役割があるはずですよ。

災害への備えとして、両家庭とも共通して水が重要と考え、備蓄していることがわかりました。しかし、それぞれの立場から必要としている情報や支援に違いがあり、お話から分かった「当事者だからこそのわかる視点」を見逃さずに自分たちのこととして考え、情報の発信を模索していきたいと思えます。(来月号につづく)



トレーニングセンター体育館 ステージ下防災倉庫が完成

6月中旬、避難所開設時に使用する防災倉庫がトレーニングセンター体育館ステージ下に設置されました。中には、防寒アルミシート、段ボールベッド、非常食、新型コロナウイルスなどの感染防止を想定した間仕切りキットなどが格納されています。

山すそ

レジ袋有料化が始まって1年が経った。「意外」と生活は変わら「ないな」というのがこれまでを振り返った正直な感想だ。マイバッグを持参することにストレスなく馴染めたというプラスの意味もあるが、レジ袋が減ってもプラスチックゴミの量は減らないという残念な気づきもあった▼そこで暫く我が家のプラスチック、野菜の包装、納豆のパック、インスタント味噌汁の袋、お菓子の袋。どれもこれもプラスチックで、こんなプラスチック大国ではなかなかプラスチックは減らせないな。海外の市場みたいに野菜を裸で売ったり、昔みたいに肉を笹の葉で包めばいいんだ。いや、さて、納豆は紙のパックに代えられるし、朝5分あれば味噌汁くらい作れる。恥ずかしながら今まで全く思い至らなかった▼レジ袋有料化は生活を見直してみたい機会だった。まず明日の朝からは味噌汁を作って、納豆は紙パックを選ぶ。そうやって少しずつ生活を見直していったら、また1年後には私は納豆を自作しているかもしれない。

図書館からのお知らせ

*「子ども科学相談」の本棚

7月22日(木)～8月23日(月)

夏休み展示企画。「NHK子ども科学電話相談」に寄せられた疑問に、村図書館の本を使って答えます。調べ学習の参考に。

*「こぐま」夏のおたのしみ会

8月のおはなしの会「こぐま」は、村内ボランティア「てぶくろ」さんによる人形劇です。

日時 8月5日(木)午前10時30分～

会場 トレーニングセンター大ホール

※お盆期間の開館時間について

8月13日(金)～15日(日)の開館時間は、

9:00～17:00 です。

お間違いのないようご利用ください。

あなたの本との出会いをお手伝い……図書館へ!

BOOK No.53

編集＝山形村図書館

山形村図書館10周年

8月1日～図書館バッグ販売します

平成23年に条例設置された山形村図書館は、この8月1日をもって10周年を迎えます。



10周年記念図書館まつりを10月24日(日)に開催の予定で、実行委員会を結成し準備を進めています。

目玉は、『わにわに』シリーズでおなじみの絵本作家、山口マオさんの講演会とワークショップです。ご期待ください。

記念イベントに先立ち、10周年記念図書館バッグを製作します。厚手キャンバス地なので、本をどっさり入れても大丈夫。8月1日(日)から図書館で販売します。

価格は1,000円、限定100枚です。ぜひお買い求めください。

「小さな時計展」時を刻む愛しきものたち展

好評開催

6月10日(木)の「時の記念日」に合わせ、9日(水)～22日(火)まで時計展を開催しました。

松本市の久保田長利さんのご協力で、約50点を展示しました。紫外線を当てると発光するウランガラスを使った時計や、ペンダント時計など、めずらしい時計が目玉を引いていました。明治時代のゼンマイ式柱時計は「祖父母の家にあった」と、その音色と共に懐かしむ声が聞かれました。村内外から大勢の方にお越しいただきました。



時をどじこめて レジンでキーホルダー作り

「小さな時計展」の展示に合わせて、6月12日(土)、久保田さんを講師にキーホルダー作りを楽しみました。

キーホルダーの台座に時計の歯車やウランガラス、鉱石やビーズなどを並べていきます。時計の構

造、宇宙、大航海時代の羅針盤など思い思いにイメージして並べ終わると、レジンという樹脂を流し込んでコーティング



し、紫外線で固めたらでき上がりです。初心者も大満足のでき栄えでした。

小学校3年生図書館見学 子どもの利用が増加中!!

6月6～8日に山形小学校3年生が図書館見学に来てくれました。

司書から「図書館の使い方」、「図書館の本の探し方」をレクチャーしてもらった子どもたちは、早速マイカードで本を借りる体験をしました。

「家まで持って帰るんだよ、大丈夫?」という大人の忠告に耳を貸さず、たっぷり10冊借りる子。「この本予約お願いします。連絡はメールで」3年生にして図書館を使いこなしている強者。なんと頼もしい3年生でした。

5月から放課後の児童館の子どもたちがトレセンで過ごすようになりまし。お迎え帰りに図書館に寄ってくれる子が激増。5時過ぎは、てんてこまいしています。うれしい悲鳴です。

BOOK 53 新着本

おすすめ新着本紹介

「カレーライスをつくらつくる」

前田亜紀(ホプラ社)

野菜やお米、肉になる鳥も育て、調味料も、食器も全部一から作ってみました。9カ月がかりのカレー作り、全記録です。

『クイズでなるほど!ふしぎなんでも百科』子ども科学電話相談

制作班編(NHK出版)

鋭い質問、かわい疑問、大人も?の難問奇問に各界の個性あふれる専門家が回答しています。

『ただいまつもの事件簿』

新津きよみ(光文社)

舞台は松本市。四柱神社、なわて通り、山賊焼き……。なじみの名称が続ぞく登場の「日常の謎」ミステリー。

『ダチョウはアホだが役に立つ』

塚本康浩(幻冬舎)

ダチョウは疾患や感染症から人間を守ってくれる、すごいパワーの持ち主。ついでにそのアホっぷりも笑ってください。

新着CD 藤井風 milet 絢香

TNETWORK 緑黄色社会

新着DVD 「翔んで埼玉」フクシマファイティ「82年生まれ、キムジヨン」

山形小学校感染対策音楽会



音楽会

6月18日(金)、山形小学校で音楽会が開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となり、2年ぶりに行われました。当日は体育館前で保護者の検温が行われ、学年ごと演奏開始時間を調整し、密にならないように体育館への入退場管理が徹底されました。

息のあつた合奏や歌、リズムなどを披露し、練習してきた成果を十二分に発揮することができた子どもたち。体育館に元気な歌声やいい音が響きました。

行われる日整全国少年柔道大会に出場しますが、女子が選出されるのは6年ぶりの快挙になるそうです。

「優勝したのは嬉しいけれど、県代表選手に選ばれて身が引き締まる思いです」と、既に次の目標に向けて気持ちを切り替えていた美月さん。活躍を応援しています。



ひらい 美月さん
(小5・小坂)

山っこ全国へ!!

美月さんは6月20日(日)に行われた長野県柔道連盟・長野県柔道会整復師会主催の大会にて優勝し、さらに県選抜メンバーに選出されました。これは小学4〜6年生の5名(各1名、2名、2名)で構成され、11月に東京の講道館で

ラベンダー摘んだよ

6月29日(火)、小学校3年生がミラ・フード館とふれあいドームでラベンダーの摘み取り体験を行いました。「ピアやまがた」と「いちいの里」に入所・通所しているおじいちゃん・おばあちゃんに匂い袋をプレゼントしようという計画し、丁寧にはさみで摘み取りました。学校では摘んできた花を短く切り、乾燥させるために籠に広げ廊下に置いたり、教室に束にして吊しました。廊下も教室もとてもいい香りに包まれました。



一般向けラベンダー摘み取り好評でした

7月1日(木)からは、一般向けの摘み取りも始まり、初日には村外より開始時刻前に来館された方もいて、多くの方が梅雨の合間の日差しの下、ラベンダーの摘み取りを楽しんでいました。



4年生社会科見学

6月25日(金)、小学校4年生が木曾方面に社会科見学に行ってきました。奈良井ダムはとても大きく、迫力がありました。職員の方のお話をしっかりと聞きメモを取って、ダムは、みんなの命を守ってくれている存在なのだと思ふことができました。他に浄水場、木曾漆器館も見学してきました。



中学校2年生職場体験

7月6日(火)〜8日(木)まで、鉢盛中学校2年生の職場体験学習が行われました。昨年はコロナ禍に伴い3日間の日程を1日に縮小して実施されましたが、今年は村内外さまざまな業種の方の協力により、予定通り3日間の職場体験を行うことができました。

このうち山形村図書館では2名の生徒が図書の保護フィルム貼付などに取り組みしました。気泡が入らないように慎重かつ丁寧な仕事ぶりで、集中して取り組む姿を見ることができました。今回の体験は「働くこと」の意義を学んだり、今後の進路を考えたりする貴重な経験となりました。受け入れていただいた事業者の皆さま、ありがとうございます。



保育園での体験



やまがた
Yふるさとレンジャー
渡来や巣作り、
初夏の野鳥を観察

6月20日(日)、『信州野鳥の会』顧問の丸山隆さん(松本市を講師に、トレーニンングセンター)からなる原公園までを徒歩で巡り、野鳥の観察を行いました。

5月から6月にかけて、鳥たちは繁殖や子育てに忙しい時期。山形小学校の枝垂れ桜の幹には、コムクドリが巣穴を作り、雄鳥が忙しそうに飛び回る姿が見られました。下大池公民館前を通り過ぎ、なろう原公園へと続く田園地帯を進むと、渡り鳥のオオヨシキリが湿地に生えるヨシ原の上で羽を休めていました。



オオヨシキリ

日本各地では河川工事に伴い、生息地であるヨシ原が減少しているそうで、丸山さんは「農耕地にヨシ原が残っていることは本当に貴重」と、絶滅危惧にある鳥や自然への思いを話していました。



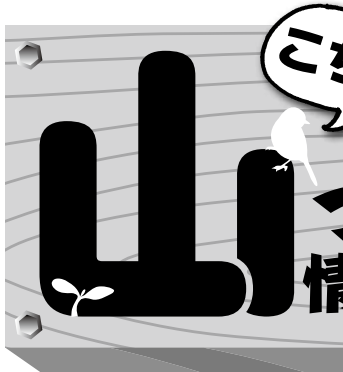
貴重な生息地が残る里山で観察

環境美化にも
取り組んでいます

レンジャー隊に所属する小学生メンバーの中から「ごみ拾いをしたい」と発案があり、同日、散策ルート上に落ちていたゴミの清掃活動を行いました。普段は見過ごされていた小さなゴミや道路脇の空き瓶、飲み残したペットボトルなど、想像以上にゴミが落ちていたことが改めてわかり、村内の美化だけではなく、野生動物たちの環境保全にもつながる活動として、続けていく予定です。



ゴミのポイ捨て
ゼツタイ、ダメ!



山つこ花壇苗植え

6月30日(水)、トレーニンングセンター正面ロタリーで小学校花園委員会の児童による花の苗植えが行われました。子どもたちが種から大切に育ててきた苗で、品種はサルビア、マリーゴールドなど多種にわたります。



トレーニンングセンターに立ち寄った際には、可憐な花ばなをご覧になってはいかがでしょうか。

やまのこ保育園
野菜のスタンプでMY手拭いを作ったよ

年中クラスの園児たちが野菜のスタンプを使った手拭い作りに挑戦しました。半分に切った野菜の断面に好きな色を付けて、さらし布の上に自由に押しつけていく園児たち。穴が特徴的なレンコンや星のような形のオクラ、お花に見える小松菜の切り口を楽しみながら、自分だけの模様を組み合わせていました。完成した手拭いは、昼食の配膳時やお散歩時に頭に巻いて使うそうで、担任の先生から「頭に巻いて、後ろで縛るといった動作が自分のできるようになり、子どもたちの嬉しい気持ちも伝わってきます。自分で作った手拭いは、気分も上がり、食事準備やお散歩もさらに楽しそうです」とお話をしてもらいました。



山形保育園プール開き

7月1日(木)、プール開きが行われました。園長先生から「水の恐さ」のお話があると園児たちは真剣な表情で聞いていました。そのあと、「けがをしないよう安全に遊べますように」と願いを込めてプールのお清めをした園児たちからはプールで泳ぐの楽しさを感じている様子が見られました。



山形村B&G海洋センター
からのお知らせ

- ★守ろう！
水辺に行くときの5つの約束
- ① 一人で行かない！
 - ② 天気を確認しよう！
 - ③ 友達が落ちたら助けを呼ぼう！
 - ④ 水に落ちたら浮いて待とう！
 - ⑤ ライフジャケットを着よう！

B & G財団では、水辺の事故防止の啓発活動を行っています。水辺の安全教室動画をYouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。



YouTubelは
こちらから

コロナ禍でのうちゲーム

いまだ新型コロナウイルス感染防止のため、窮屈な生活が続いています。旅行や外出を控えてストレスもたまっているのではないのでしょうか?長引くうち時間を楽しく過ごすゲームを紹介します。

○テレビゲーム

- 「桃太郎電鉄」
- 「スプラトゥーン」
- 「マリオカート」
- 「スーパーマリオパーティ」

○カードゲーム

- 「トランプ(いろいろな遊びがある)」
- 「ウノ」
- 「はあって言うゲーム(演技力が勝負)」
- 「ナンジャモンジャ(想像力と記憶力)」

○ボードゲーム

- 「人生ゲーム(いろいろなバージョンがある)」
- 「オセロ」
- 「麻雀」



編集部Mのおすすめゲーム



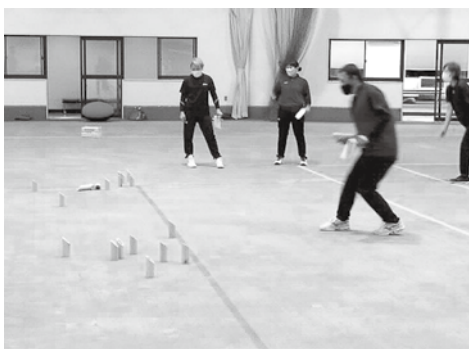
出典：福永紙工ネットショップ「かみぐ」

「トータス MEDAL」

トータスのルール

- ①すべてのメダルを、数字が下になるように並べてじゃんけんをして順番を決めます。
- ②最初のプレイヤーは好きなメダルをめくって裏に書かれた数字を足していきます。足してちょうど10になったら、めくったメダルを獲得!そのメダルの枚数が得点になります。10にできたら、連続してメダルをめくることができます。合計が10を超えてしまったらはずれ。メダルをもとに戻して次の人の順番になります。

「モルック」



年齢や体力関係なく老若男女誰もが楽しめるのがモルックの特徴です(道具はトレーニングセンターで借りられます)

6月17日(木)、ふれあいドームでスポーツ推進委員がモルック体験を行いました。モルックはフィンランド発祥で、白樺の木を使った投げるボウリングのようなスポーツです。

ルールだけ聞いて練習を始めましたが、モルックの投げ方や倒したいものが倒れないもどかしさで最初は必死に投げている感じでした。やっているうちにみんな楽しそうにモルックのコツが分かるようになりました。今後の分館対抗でも楽しめそうです。

これは倒れたスキttl(ボウリングでいうとピン)の点数と倒れたスキttlの足し算など技術と知力が勝負のカギになります。

4点



11点



佐野 澄夫 54歳 上竹田
 渋谷 小夜子 64歳 上大池
 小林 美恵子 83歳 小坂
 百瀬 宏司 74歳 下竹田
 堤 敏子 96歳 上大池
 花村 莊治 81歳 小坂
 吉野 昭司 80歳 上竹田
 野口 輝登 94歳 上大池

おくやみ

高山 安衣 晃司 下竹田
 楓



(敬称略)

7月2日(金)、トレーニングセンターふるさと大ホールで、山形村人権教育推進委員会総会および講演会が行われました。前半は昨年度の活動実績と本年度の活動計画について出席者全員で確認を行い、後半は中信教育事務所生涯学習課の指導主事 酒井邦明さんを招いて「人が大切にされる地域づくりをめざして」と題した講演会が行われました。



人権教育

3年連続

村民運動会中止に

7月9日(金)、トレーニングセンターふるさと大ホールにて、公民館本館役員会が開催され、本年度の村民運動会の中止が決定されました。屋外であっても集まる人数の規模や種目によっては密接する場面が生じることなどが考慮されました。

村民運動会は、令和元年度の台風接近に伴う中止、昨年度は今回同様コロナ禍での中止と3年連続となり、山形じゃんずら中止も相まって寂しい夏・秋となりそうです。



古文書講座開講

7月2日(金)、トレーニングセンター語らいの部屋で古文書講座が開講しました。講師は塩尻市の太田秀保先生、毎月1回の全9回を予定しています。同講座は公民館が主催し、村内在住の方が受講可能です。

初回の内容は、文化13年(205年前の江戸時代)に三溝村(旧波田町)から大池村の庄屋へ送られた証文(嫁ぐ女性の身分証明のような文書)を読んできました。解らない文字は指でなぞってみるなど、古文書を読み解くコツを交えながら、太田先生の話術と巧みな解説は当時証文を書いた庄屋の心情までをも読み解ける内容となりました。古文書の読解はもちろん、山形村を形成する以前の村内地域の歴史を知る上でも大変興味深い内容になっていきます。次回は8月6日(金)、受講をご希望の方は山形村公民館(☎98-3155)までご連絡ください。



続糸車

村内の文化財などについてご紹介する「続・ミニ糸車」第8号となる今回は、今月から始まった山形村ふるさと歴史展示についてご紹介します。

縄文時代の遺跡がたくさんある山形村。実は僅かではありますが弥生時代の遺跡もいくつかあります。今回の展示では、村内の遺跡から出土した弥生土器に加え、県立歴史館所蔵の弥生土器もお借りして展示します。普段は見ることのできない貴重な土器を間近でご覧いただけます。特別講座も予定していますので、こちらも是非お出かけください。



山形小学校から出土した弥生土器です☆

「弥生時代」を知ろう！展
 ・会場…ミラ・フード館 ロビー
 ・期間…7月9日(金)～8月10日(火)
 特別講座「松本盆地の弥生文化を語る」
 ・講師…県立歴史館 町田勝則学芸員
 ・日時…7月24日(土)13時30分～15時
 ・会場…ミラ・フード館 ホール・ミラ
 ※予約制、先着40名
 ご予約は教育委員会(☎98-3155)へお願いします。

みんなの人権

“山形っ子の歓声 再び！” ～1年ぶりに山形っ子タイム、再開



◆新しい年度を迎えて4ヶ月。コロナ禍で中断されていた村の学校支援事業も、

再稼働を始めました。毎週水曜日放課後の「山形っ子タイム」も、相変わらず続くコロナ禍の中、感染症対策を徹底して、4月から1年ぶりの再スタートとなりました。◇5月には新入生も加わって、毎週集う児童数は総勢110人強。2年前、まだ初々しかった1年生は、たくましい3年生になっていました。どの学年の子も2年分上級生になっての再開。ボランティアも子どもも「久しぶり！元気だった？」と声の掛け合い。◇図書館やボランティアルームは読書や宿題に取り組み子どもたちで満杯。鉛筆の先が丸くなって困っている下級生に鉛筆削りを貸してあげる上級生。お互いにわからないところを教え合う高学年の仲間たち。そして、見守り活動の合間に近況を語り合うボランティア仲間。そこに漂う「夏の風景」。しばらくして宿題を終えようと、校庭や体育館、中庭で、それぞれに鬼ごっこやドッジボール、ブランコやサッカーと汗だくになって、群れ遊ぶマスク姿の山形っ子たち。例年に無く早く葉桜に変身した山小のシンボル桜も風にしだれながら、子どもたちを優しく見守ってくれています。◇村全体を眺めれば、長引くコロナ禍で、隣人同士が、気楽に顔を合わせて交流し合えない、鬱屈とした毎日が続いています。そんな中、「マスク越しに、お互いの距離をとって」など、不自由な環境を強いられるものの、「山形っ子タイム」は、同時に再開された「読み聞かせ」や「わくわくクラブ」などの支援事業と共に、集う老若男女に新鮮な触れ合いの場を提供してくれています。◇それはまた、2年前まで当たり前前に感じていた「対面の語り合い、学び合い、ふれあい」のありがたさ、それを可能にしてくれた「安心と安全、平和な日常」のありがたさを改めて痛感するひとときでもあります。コロナ禍という「有事状態」が一刻も早く去って、かつての当たり前の日常が戻ってくる日を待ち望みながら、子どもたちのマスク越しの歓声に元気をもらうこの頃です。(令和3年7月 M・H記)

安全で美味しい
給食に
かける



おいしい としこ
大池 俊子さん (上大池)
【写真左】
くぼた のりこ
窪田 典子さん (小坂)
【写真右】



子どもたちが食べ終わった後の1コマ
(撮影のため、マスクを外しています)

今から30年ほど前、学校からの「給食に地域で採れた食材を使いたい」との要望で設立した『安全な学校給食を守る会』。主に農作物の生産者を中心に15名ほどで活動しています。現在では、やまのこ保育園、山形保育園、山形小学校、鉢盛中学校に村内で採れた食材を給食用に供給しています。

先日から毎月2回行われる『やまがた未来塾』が開講されましたが、その昼食を用意しようと、『未来塾部会』が発足しました。取材当日のメニューは、豚丼、煮干しと昆布でしつかりと出汁をとった野菜たっぷりのお味噌汁、サラダでしたが、出汁・肉・豆腐・しらたき以外は全て村内産というこだわりで作っていました。味噌も手作りだそうです。子どもたちにも好評で、おかわりをする人が続出するほどでした。

「子どもたちの食育の一環として、村内でいろんな種類の野菜が採れて、それが給食になって出てくることはすごいことだと言うことを知ってもらいたい。これは村の魅力であり、学校の特徴であるので、そのことをどんどん発信していきたい」と話してくれました。



今月のテーマ **我が家の愛しのペット**

～やまがたsmileへの情報提供お待ちしております～

例) 特技、自慢のお宝、思い出の品、秘伝のレシピなど

下記のいずれかの方法でご連絡ください。

入力フォーム 右記QRコードを読み取ってください。

メール 下記アドレスへメールしてください。

kanpou@vill.yamagata.nagano.jp

電話 ☎0263-98-3155 (山形村公民館)



このはちゃん
(下大池)
8歳 柴系の雑種

主人のリハビリのお供にと、息子が群馬県の赤城山に生息する野犬の保護施設から譲り受けてきました。木の葉が舞う11月に家に来たことや茶色の毛並みから名付けました。

白いご飯が大好きで家族の食事中に近づいてきて、膝に顎をのせておねだりしているこのはです。朝夕と夫婦で近所の里山へ散歩に行くことが楽しみな日課であり、このはのおかげで明るく賑やかな毎日を過ごしています。



もたい **嚮しろちゃん**
(小坂)
4歳 サモエド

息子が小学校5年生のときにネットで見つけたサモエドを飼いたいと言ったので、誕生日プレゼントとして香川県のブリーダーまで迎えに行きました。息子2人と車で9時間の長旅は大変でしたが、今でもいい思い出です。

ロシアの原種で体格が大きく、お散歩中にはびっくりされますが、フレンドリーで誰にでもしっぽを振るしるです。「撫でて～」と顔を近づける仕草や大きな足が可愛いです。

山形村公民館報『館報やまがた』No.783 7月号 令和3年7月発行
編集と発行/長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷/カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

